S-ATAⅢ増設 PCI Express ボード

目次

安全上、仕様上の注意 / 商品仕様 1
製品の取付け方 2
アクセスＬＥＤ/ ロープロファイルブラケット取付け方 3
本製品に接続した HDD/SSD に Windows XP OS のインストール方法 4
本製品に接続した HDD/SSD に Windows 7/Vista OS のインストール方法 5
RAID 0 を構築したい場合 7
RAID 1 を構築したい場合 11
RAID 1 の再構築 (リビルド) 手順 15
RAID 監視 (モニター) ソフトのインストール手順 17
RAID 監視 (モニター) ソフトの使用方法 18
SATA Ⅲ ポート増設用のインストール手順 (全 OS 共通).. 20

【利用方法別手順のご案内】
※本製品はご利用方法によりインストール手順が異なります。

製品本体に接続したHDD/SSDにOSをインストールする手順(RAID無し)

[XP] OSの場合4ページの手順に従ってインストールを行って下さい。
[Vista / 7] OSの場合5~6ページの手順に従ってインストールを行って下さい。

製品本体に接続したHDD/SSDにOSをインストールする手順(RAID 0 構築)

[XP]7ページの【RAID 0】構築手順後、4ページのOSインストール手順を行って下さい。
[Vista / 7]7ページの【RAID 0】構築手順後、5～6ページのOSインストール手順を行って下さい。

製品本体に接続したHDD/SSDにOSをインストールする手順(RAID 1 構築)

[XP]11ページ目の【RAID 1】構築手順後、4ページ目のOSインストール手順を行って下さい。
[Vista/7]11ページ目の【RAID 1】構築手順後、5～6ページのOSインストール手順を行って下さい。

SATAポート増設用ボードとして使用する手順

[全OS共通]20ページ目の手順に従ってインストールを行って下さい。

RAID 1 構築したHDD/SSDに問題が起きた際に

[全OS共通]17/18ページの監視ソフトの導入/設定をして問題が起きたHDD/SSDを15ページの再構築(リビルド)手順にて復旧させる。

【安全 / 使用上の注意】

この度は当社商品をお買い上げ頂き有難うございます。
本書は製品を正しくご使用頂く使い方・製品説明及び注意事項を記載しております。必ず本書をお読みになってから製品の取付作業、ご利用を行って下さい。

⚠警告 下記記載の内容をお守り下さい。お守り頂かないと火災・感電・故障・怪我の原因となります。

パソコンの内部に部品を取り付ける場合は、パソコンの電源及び周辺機器の電源をOFFにしてから取付作業を行って下さい。

パソコンご使用直後はパソコン内部に触れないで下さい。パソコン内部には高温になる部分があり、冷めるまでお待ち下さい。

液体・異物が入らないように注意して下さい。また、本製品を高温・多湿の場所で使用しないで下さい。

本製品を取り付ける場合は、本書とそれら取付けるパソコン及び周辺機器の取扱説明書を合わせてご確認下さい。

異臭・異音がする場合はただちに使用を止め、当社までお問合せ下さい。

本製品は精密機器です。本製品の落下、強い衝撃、静電気を与えないように作業して下さい。

本製品に触れる前に身体の静電気を取り除いて下さい。静電気が発生しにくい衣類を身につけて作業を行って下さい。本製品を接続する前に必ずパソコンデータのバックアップを行って下さい。
■下記のような場所での使用を必ず避けて下さい。
強い磁気の影響を受ける場所/静電気が発生する場所/振動を受ける場所/火気周辺、高温多湿、結露が発生する場所/直射日光を受ける場所/平らではない場所/漏電・漏水の可能性がある場所/電子機器の影響があってはならない場所(病院等)/その他、常識では考えられない場所での使用はお止め下さい。

本製品の故障又はその使用上生じた他製品の破損・損害及びデータ破損につきましては一切の責任を負いません。必ず付属ケーブルに異常がないかご確認頂くと共にデータバックアップを行って下さい。

特定の機器でのみ発生する不具合につきましては保証対象外となります。
本製品を廃棄する場合は、各地方自治体の条例に従って廃棄して下さい。
最新情報は当社製品サイトにて更新情報があり次第、ご案内していく予定です。

※取付時はパソコンの電源をOFFにし、内部温度が冷めてから取付を行って下さい。

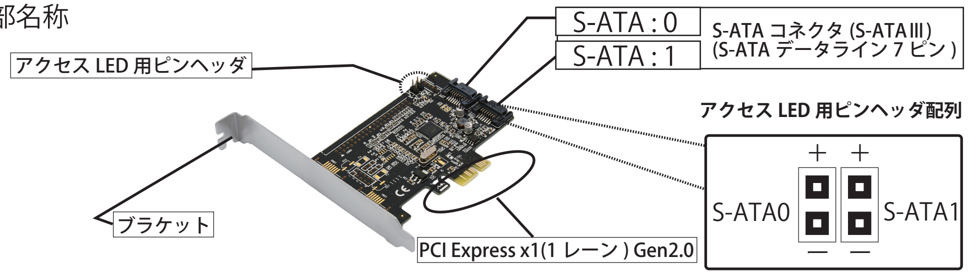
【製品特長】 PCI Express x1(Gen1/Gen2)スロットに接続する事で『S-ATA3.0』『IDEコネクタ』を増設出来る様になります。*Gen1に接続された場合は2.5Gbps(理論値最高速度/SATA3.0)となります。

PCI Express x1のGen1、Gen2とは?

PCI Express x1には現在(2012年2月)ジェネレーション1(Gen1)とジェネレーション2(Gen2)がございます。Gen1のスロットは2.5Gbps、Gen2は5Gbpsの転送速度となります。本製品はGen2のスロットに接続する事で転送速度をフルに発揮出来ます。Gen1に接続すると、転送速度は2.5Gbpsとなります。(各転送速度は理論値)　Gen1/Gen2の確認はご使用のマザーボードの取扱説明書にてご確認下さい。

**Gen1/Gen2 は Rev1/Rev2 と表記される場合もございます。

■各部名称



■製品仕様

商品名	RAID JET
商品型番	SD-PESA3-2RL
接続スロット	PCI Express×1
インターフェース	SATA Ⅲ 転送対応7ピン形状
搭載コネクタ	Mavell 9128*
RAID構築	RAID0/1
アクセスピンヘッダ	アクセスLED用2ピン
対応OS	Windows XP / Vista / 7 (各64/32bit OS対応)
ポートマルチプライヤー	対応*2
ブートドライブ	対応
光学ドライブ	対応*3
サイズ	68mm×97mm(ブラケット、突起部分は含まず)
重さ	約47g

■梱包内容

- □・ **ボード本体**
- □・ **ロープロファイル型 PC 用ブラケット**
- □・ **ドライバ CD**
- □・ **製品保証書**
- □・ **取扱説明書 (本書)**

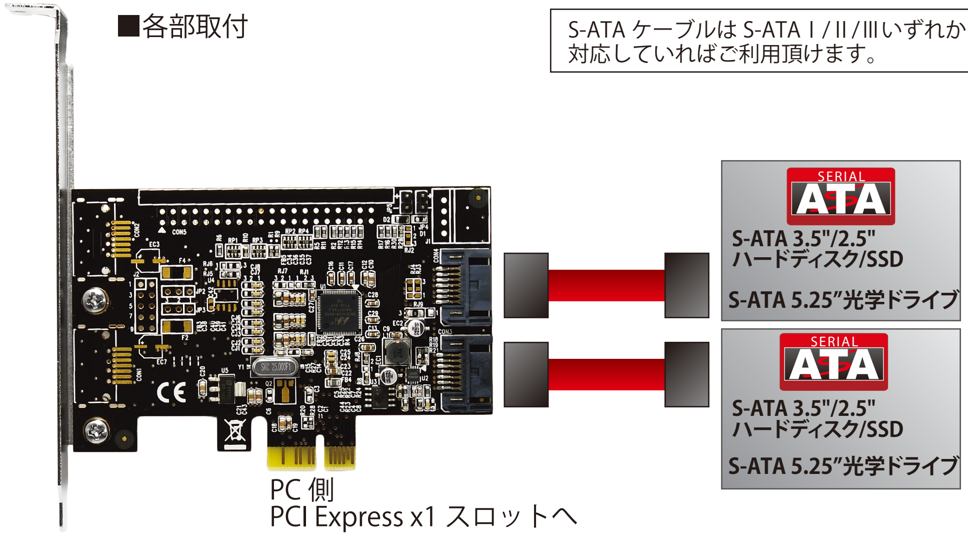
*1: RAID 1 (ミラーリング)の構築が可能でモニター及び、リビルド機能があります。RAID設定はS-ATA接続のHDD/SSDに限ります。JBOD設定には非対応です。*2:ポートマルチプライヤーに関しましては対応しておりますPCI Express x1 (Gen2.0)準拠です。Gen1でも動作しますが転送速度が低下する場合がございます。* 3 :光学ドライブによりましてはブートディスクを読み込めない場合がございます。

ドライバインストールを行う前に必ず本製品に付属しておりますドライバCDをご利用のパソコンのCD-ROMドライブに挿入して下さい。紛失・ご利用頂けない場合は当社ドライバダウンロードサイトよりダウンロードして下さい。

【デバイスを接続する】

■各部取付

S-ATA ケーブルは S-ATA I / II / IIIいずれかに
対応していればご利用頂けます。



【注意！】S-ATA コネクタに関しまして
S-ATA コネクタは規格上、破損し易い形状です。無理に力が掛かってコネクタが破損しないようにして下さい。

【本製品をパソコン本体に接続する】

1. 本製品を接続するパソコン及びパソコンに接続している周辺機器の電源をOFF（パソコン本体を先にOFFにします）にし ます。

2. パソコン本体に接続しているケーブルを取り外します。

3. パソコン本体のカバーを取り外します。カバーの取り外し方は各メーカーにより異なります。必ずご使用のパソコンメーカーの取扱説明書をご参照下さい。

4. 本製品をPCI Express x1スロット部分とケースのブラケット部分の位置を確認し、ケース側のブラケット取り外します。取外し時にはネジでブラケットが止まっております。このネジは本製品をケースと接続する時に必要となります。

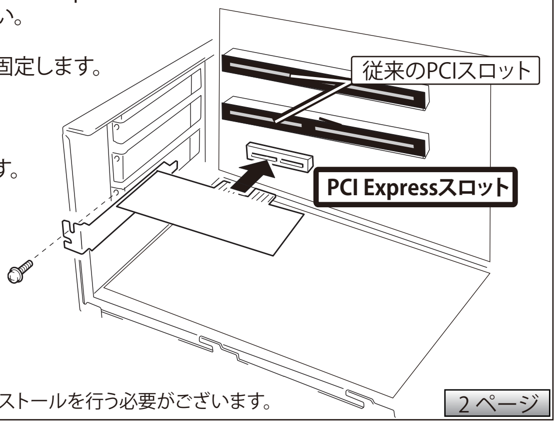
5. PCI Express x1スロットに本製品を差し込みます。※PCI Express x1スロットには向きがございます。溝の部分を合わせて平行に奥まで差し込んで下さい。

6. 差込後、本製品とケース側を先ほどのネジを用いて固定します。

7. 2で外したケースを元のように取り付けます。

8. 1で取り外したケーブル類を元にように取り付けます。

以上で接続作業は終了です。



※：従来のPCIスロットには接続出来ません。

図のスロットの位置は例です。
スロット位置に関してはマザーボードにより異なります。

本製品はパソコンの電源ON後、各OSでそれぞれドライバインストールを行う必要がございます。

【アクセス LED に関して】

ブートドライブを本製品に取り付けた場合のみ役立つ接続方法です。
本製品上にあるアクセス LED 用ピンヘッダに PC ケース部分のアクセス LED ケーブルを取り付けて下さい。
（通常のパソコン内部のマザーボードに接続されています。詳しくはご利用の PC ケース並びにマザーボードの取扱説明書をご確認下さい）

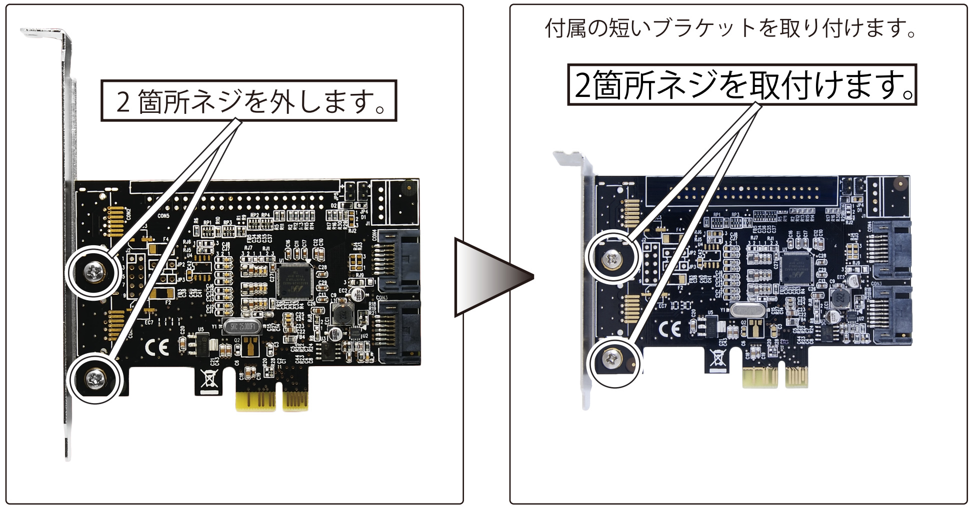
※なお、上記の接続は行わなくてもご利用に支障はございません。
但し、HDD のアクセス LED が点灯しなくなります。

ブートドライブ以外で本製品をご利用の場合は、上記の接続の必要ございません。
※ピンの取付が＋/ー逆ですと光りません。この場合は入替て接続して下さい。
一部のブルー LED 等、通常 LED よりも若干消費電力が多い LED をご利用の場合は光源が弱くなる場合がございます。

【ロープロファイルブラケット取付方法】

プラスドライバ工具必要

ロープロファイル型パソコン（省スペース型パソコン）で本製品をご利用頂くには付属のロープロファイルブラケット（金具）に取り替える必要がございます。



※プラスドライバは付属しておりません。

【本製品に接続したHDD/SSDにOSをインストールする手順】Windows XPの場合

必要なもの（お客様にてご用意下さい）
①『フロッピードライブ』②『フロッピーディスク』
③『フロッピーディスクにドライバをコピーするためのパソコン』

HDD SSD のデータは消去されます。

【WindowsXP の場合】**※予め、FDDにドライバをコピーできる環境が必要です。**
Windows 起動後に付属の CD を CD-ROM/DVD-ROM ドライブに挿入して下さい。
「マイコンピューター」→「ドライバ CD」→「PCIe」→「Marvell91xx」→「1.0.0.1030-CPU-」→「SCSI miniport driver」→「miniport」→「Floppy32(32bit OS の場合)」or「Floppy64(64bit OS の場合)」のフォルダの中にありますファイルを FDD にコピーして下さい。※ドライバの名称、保存されている場所ですが、ドライバのアップデートにより、予告無く変更する場合がございます。エアリアWebページにて確認して下さい。

その後、2 ページの手順で本製品と機器を取り付けて下さい。

①の前に：
※【USB フロッピードライブ】を用いる場合は、パソコンを起動する前に接続して下さい。
※【フロッピーディスク】は下記手順の②まで挿入しないで下さい。

①

通常通りに OS のインストールを開始して下さい。
開始直後に画面下部に【PressF6…】とメッセージが出てきますので、【F6】キーを押して下さい。
表示時間が短いので、押す準備をして下さい。
F6 を押しても暫くは画面が自動的に進行致します。

②

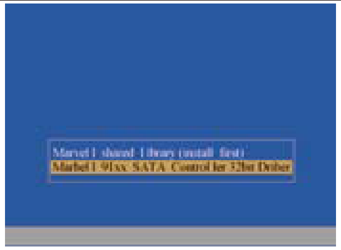
暫くすると青い画面に白い文字が書いてある画面が表示され、画面下部に、「S=Specify Additional Device ENTER=Continue F3=Exit」と表示が出ます。
ここで【フロッピーディスク】を FDD に挿入して下さい。

③

「Press ENTER when ready」の画面が表示された所で Enter キーを押してください。

④

ドライバの選択画面が表示されますので、「Marvell shared library(install first)」を選択し、Enterキーを押して下さい。
その後②の画面に戻ります。

⑤

再度②③の手順で進んで、④のドライバ選択画面になりましたら、次は「Mabell 91xx SATA Controllerxxbit Driver」を選択し、Enterキーを押して下さい。その後②の画面に戻ります。

⑥

再度②の画面に戻りましたら、『Enter』キーを押して下さい。
それ以降は通常通りの OS インストール手順に添って進行して下さい。

以上でインストール完了です。

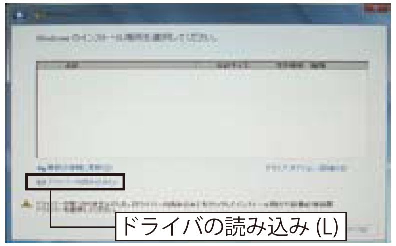
【本製品に接続したHDD/SSDにOSをインストールする手順】Windows Vista / 7 の場合

【インストール前の準備】Windows 起動後に製品に付属の CD を CD-ROM/DVD-ROM ドライブに挿入して下さい。
【32Bit の場合】
「ドライバ CD」→「PCIe」→「Marvell91xx」→「1.0.0.1030-CPU-」→
「SCSI miniport driver」→「miniport」→「i386」のフォルダを USB メモリーにコピーして下さい。
【64Bit の場合】
「ドライバ CD」→「PCIe」→「Marvell91xx」→「1.0.0.1030-CPU-」→
「SCSI miniport driver」→「miniport」→「amd64」のフォルダを USB メモリーにコピーして下さい。

※ドライバの名称、保存場所ですが、アップデートにより、予告無く変更する場合がございますので、ドライバの場所が分からない場合、エアリアWeb内本製品のページ、FAQを確認して下さい。

その後、2 ページの手順で本製品と機器を取り付けて下さい。

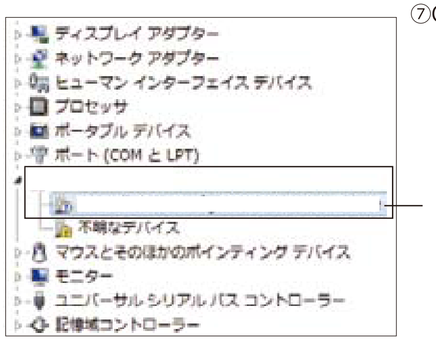
①インストールを始める前にドライバを入れた USB メモリーをパソコンの USB ポートに接続して下さい
②通常通りに OS のインストールを開始して下さい。。

③通常通りに OS のインストールを進めて行きの下記画面になりましたら、「ドライバの読み込み」をクリックします。


④「参照」クリックします。
『フォルダの参照』画面が開きますので USB メモリーに入れましたドライバ（32bitOS:「i368」フォルダ / 64bitOS なら「amd64」フォルダ) をクリックして『OK』をクリックして下さい。
ドライバの読み込みが開始されます。

⑤「インストールするドライバを選択してください」と表示されている画面になりましたら、『Marvell 91xx SATA 6G Controller(xxxx)』を選択して次に進んで下さい。※**名称は予告無く変わります。**

⑥それ以降は通常通りの OS インストールになりますので、RAID を組みました HDD を選択して手順通りに進めて下さい。



⑦OS のインストールが完了しましたら、

パソコンの電源をONにして、Windows Vista/7起動後、「(マイ)コンピュータ」右クリック→「管理」クリック→開いたウィンドウ左側の「デバイスマネージャー」をクリックしてデバイスマネージャーを開きます。

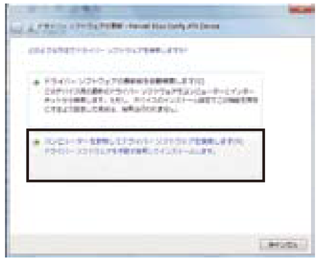
「IDE ATA/ATAPIコントローラー」クリック→「Standard AHC 1.0 serial ATA Controller」右クリック→「ドライバソフトウェアの更新」クリックします。
※ドライバの名称はアップデートにより、予告無く変更する場合がございます。

6 ページ目に続く

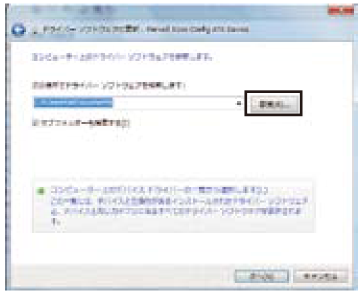
補足 デバイスマネージャー参照方法

「マイコンピューター」を右クリック「 管理 」をクリックして『デバイスマネージャー』をクリックします。

⑧「コンピューターを参照して
『ドライバーソフトウェアを検索します』
をクリックします。



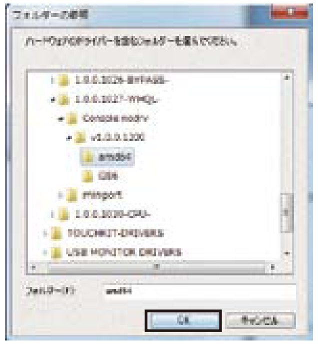
⑨『参照』をクリックします。



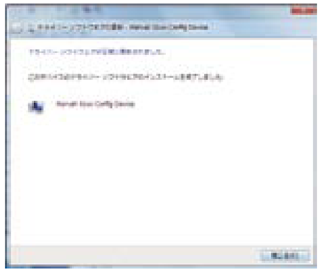
⑩

ドライバ CD をクリック
「PCIe」→「Marvell91xx」→「Windows」→「Win_xxbit(xxはインストールしたOSのbit数を選択して下さい。)」フォルダをクリックして『OK』をクリック→「次へ」クリックしますとドライバのインストールが始まります。

※ドライバの名称、保存場所はアップデートにより、予告無く変更する場合がございますので、ドライバの場所が分からない場合、エアリアWeb内本製品のページ、FAQを確認して下さい。

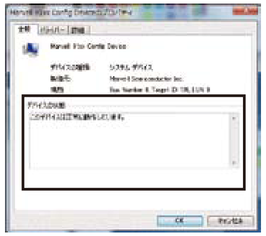


⑪インストールが正常に完了しましたら、『閉じる』をクリックして、インストールを完了して下さい。



デバイスマネージャー画面に戻り、(デバイスマネージャーウィンドウを閉じてしまった場合は、5ページのデバイスマネージャー参照方法にてデバイスマネージャーを開きます。)「記憶域コントローラー」クリック→「Marvell 91～～」と表示されているデバイスを右クリック→「プロパティ」をクリックして、正常に認識しているか確認して下さい。

以上でインストール完了です。



【RAID 構築の基本】【RAID 0】

本製品の S-ATA コネクタに接続 HDD(SSD)2 台を RAID0(ストライピング）として構築する事が可能です。
この場合構築出来る HDD は下記の通りとなります。

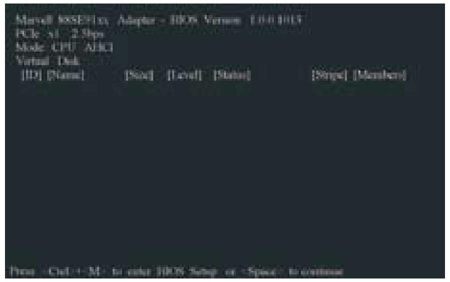
『同一メーカー』、『同一容量』、『同一型番』の HDD(SSD) である事が条件です。

RAID0(ストライピング）とは？
■メリット
1 つのデータを 2 台の HDD(SSD) に分けて同時に書き込む方法で速度アップを目的とした機能

■デメリット
2 台の HDD/SSD にデータを分散させて書き込む為、片方の HDD /SSD が壊れた場合､データが壊れてしまう。

パソコンとの取付方法は 2 ページ目をご確認下さい。

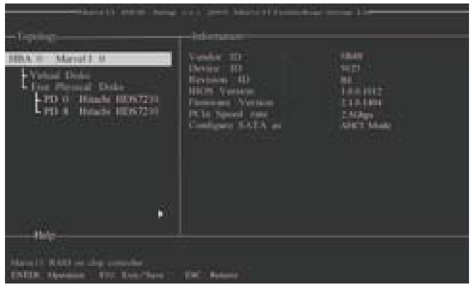
【RAID 0 構築方法】



パソコンの電源を入れますと BIOS 画面に製品の表示がされましたら画面左下に「Press <Ctrl>+<M>to enter BIOS setup or confinue」と表示されます。
『Ctrl』と『M』キーを同時に押してください。
メイン画面に入ります。
表示時間が短く、数秒で消えますので押す準備をしておいて下さい。

＜見逃してしまった場合は再起動して下さい＞

① RAID 構築画面メイン画面



「HBA 0：Marvell 0」で Enter キーを押します。

②

「Configration Wizard」Enter キーを押します。

③

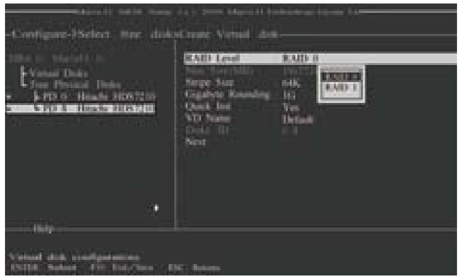
正常に認識されている、HDD が表示されていますので、
SPACE キーを押しますと＊マークが左側に表示されます。

④

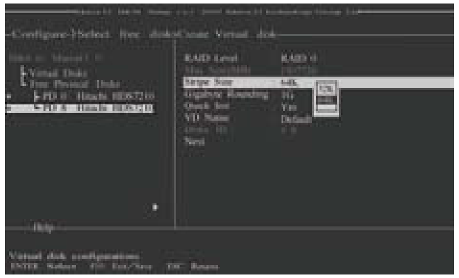
十字キーの下を押して頂きまして、RAID を組む
もう一つの HDD にカーソルを合わし
SPACE キーを押しますと＊マークが同じように表示
されます。

⑤

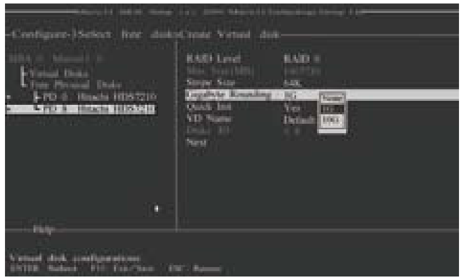
『Enter』キーを押すと画面右側の RAID の設定
画面に移ります。

⑥

[RAID Level] にカーソルを合わせて Enter キーを押
して「RAID 0」にカーソルを合わせて Enter キーを押
して頂きます。

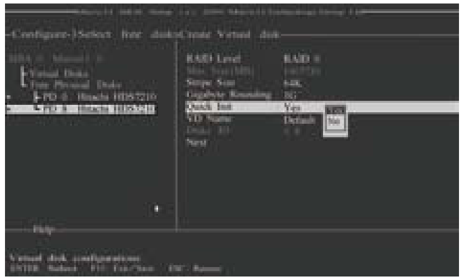
初期設定は『RAID0』

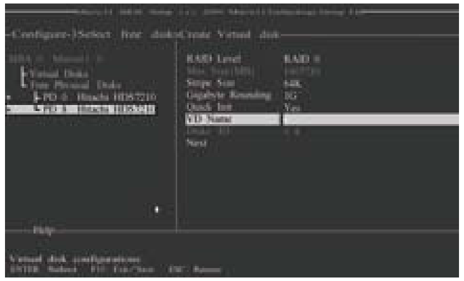
⑦

下キーを押して頂いて「Stripe Size」にカーソルを
合わせて Enter キーを押して頂きますと、HDD の
ストライプサイズを 32K/64K から選択出来ます。

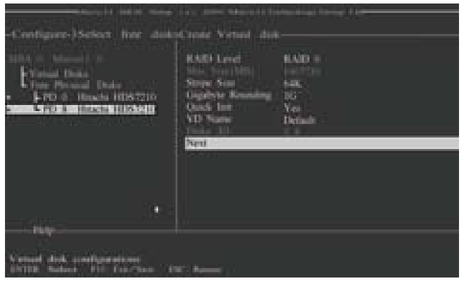
初期設定は『64K』

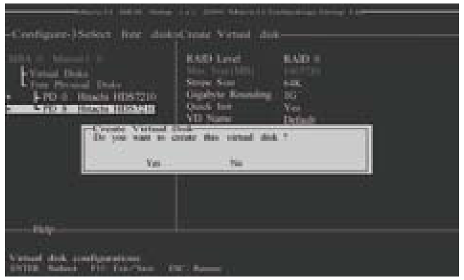
⑧

下キーを押して頂いて「Gigabyte Rounding」に
カーソルを合わせて Enter キーを押して頂きます
と丸め誤差の調整を「None」「1G」「10G」の中
から選択出来ます。

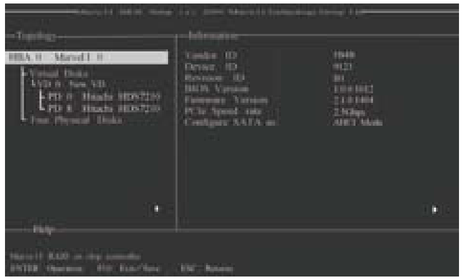
初期設定値は『1G』

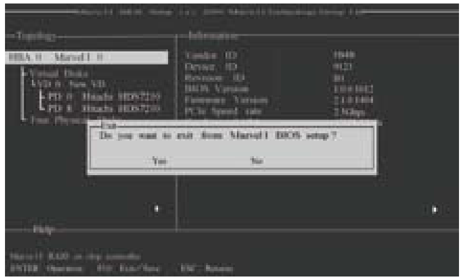
⑨

下キーを押して頂いて「Quick Inst」にカーソルを
合わせて Enter キーを押して頂きますと、
クイックインストールするか選択出来ますので
「Yes」「No」から選択して下さい。
「Yes」にしますと RAID を構築する際に素早く
インストール出来ます。
初期設定は『Yes』


下キーを押して頂いて「VD Name」にカーソルを
合わせて Enter キーを押して頂きますと、
ヴァーチャルディスクの名前をキーボードで
入力出来ます。
何も入力しないと『New_VD』になります。


下キーを押して頂いて「Next」に合わせて頂いて
Enter キーを押して頂きます。


「Create Virtual Disk」
『Do you want to create this virtual disk ？』と
表示されますので『Y』キーを押してください。


[Virtual Disks] の部分が今回作成しました
RAID、HDD になります。

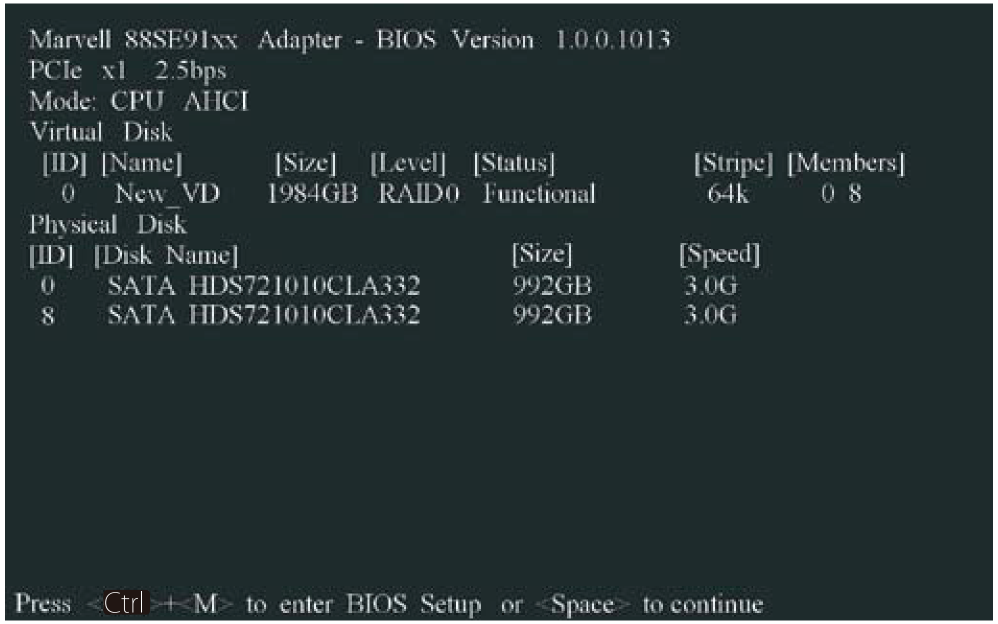

RAID の構築 が完了しましたら、
『F10』キーを押しますと [Exit] ウィンドウが開きますので、
『Y』キーを押しますと設定され終了します。

RAID 構築後、OSインストール方法は、
Windows XPの場合、4ページ目を確認して下さい。
Windows Vista/7の場合、5～6ページ目を確認して下さい。

RAID 構築後、増設用途で使用する場合は、
20ページ(**全OS共通**)

10ページに続く

再起動後、WIndows 起動前に構成の全体の情報が表示されます。



VD の RAID レベルです。

本製品が接続されている
PCI スロットの情報です。

本製品の転送タイプの情報になります。

VD の ID と VD の名前です。

VD の容量になります。

Functional 関数表示方法です。

情報の転送 K 数です。

VD を組んだ HDD/SSD の ID です。※変更不可

本製品に使用しているチップの情報

本製品に接続されているHDD/SSDの情報。

【RAID 構築の基本】【RAID 1】

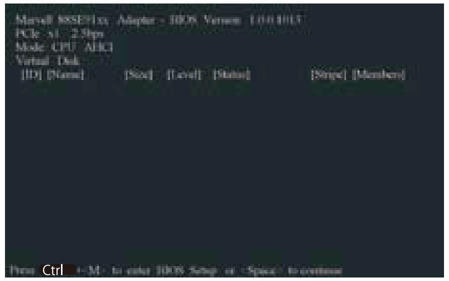
本製品の S-ATA コネクタに接続した HDD(SSD)2 台を RAID 1(ミラーリング) として構築する事が可能です。
この場合構築出来る HDD / SSD は下記の通りとなります。

『同一メーカー』、『同一容量』、『同一型番』の HDD(SSD) である事が条件です。

RAID 1(ミラーリング) とは？
■メリット
2台のHDD/SSDに同じデータを書き込むため、1台のHDD/SSDが故障した場合でも、同じデータがもう1台のHDD/SSDに記録されているため、安心度が飛躍的に上昇します。※**100%のデータ保証をするものではございません。**
■デメリット
バックアップ用のHDD/SSDとするため、2台のHDD/SSDで1台分の容量となります。

パソコンとの取付方法は 2 ページ目をご確認下さい。

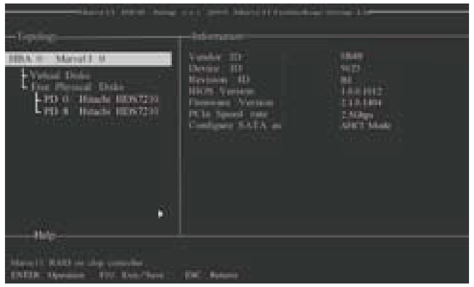
【RAID 1 構築方法】



パソコンの電源を入れますと BIOS 画面に製品の表示がされましたら画面左下に「Press <Ctrl>+<M>to enter BIOS setup or confinue」と表示されます。
『Ctrl』と『M』キーを同時に押してください。
メイン画面に入ります。
表示時間が短く、数秒で消えますので押す準備をしておいて下さい。

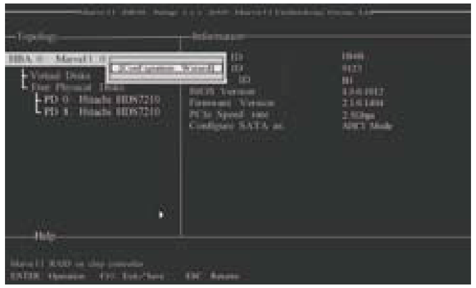
＜見逃してしまった場合は再起動して下さい＞

① RAID 構築画面メイン画面



「HBA 0：Marvell 0」で Enter キーを押します。

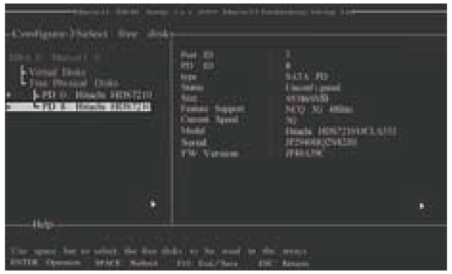
②

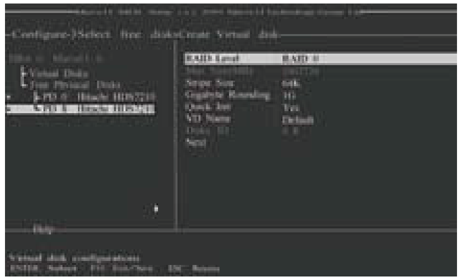


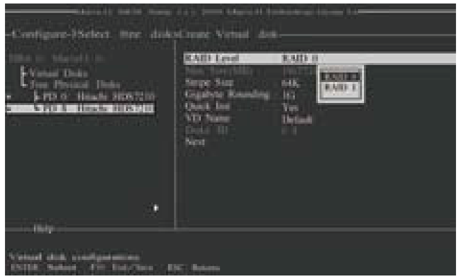
「Configration Wizard」Enter キーを押します。

③

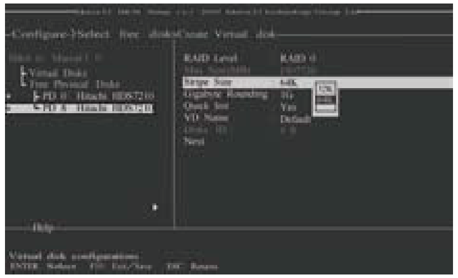
正常に認識されている、HDD が表示されていますので、SPACE キーを押しますと＊マークが左側に表示されます。

④

十字キーの下を押して頂きまして、RAID を組む
もう一つの HDD にカーソルを合わし
SPACE キーを押しますと＊マークが同じように表示
されます。

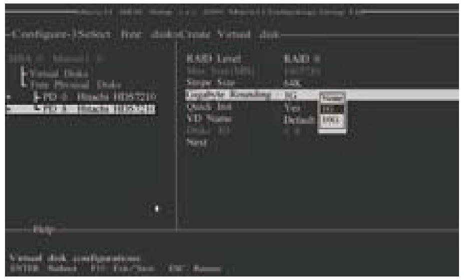
⑤

『Enter』キーを押すと画面右側の RAID の設定
画面に移ります。

⑥

[RAID Level] にカーソルを合わせて Enter キーを押
して「RAID 1」にカーソルを合わせて Enter キーを押
して頂きます。

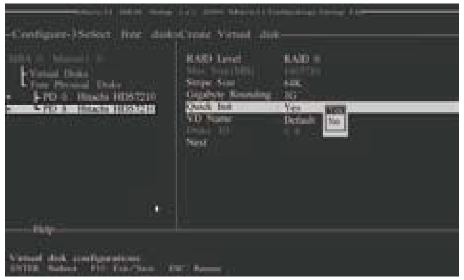
初期設定は『RAID0』

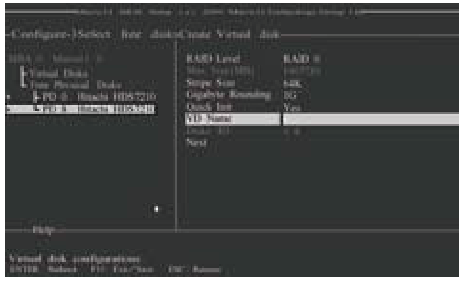
⑦

下キーを押して頂いて「Stripe Size」にカーソルを
合わせて Enter キーを押して頂きますと、HDD の
ストライプサイズを 32K/64K から選択出来ます。

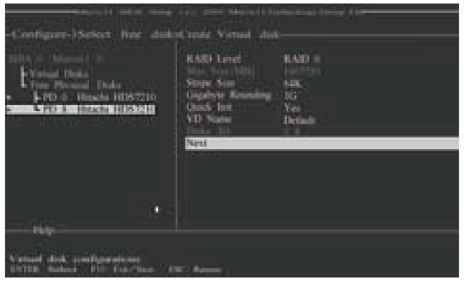
初期設定は『64K』

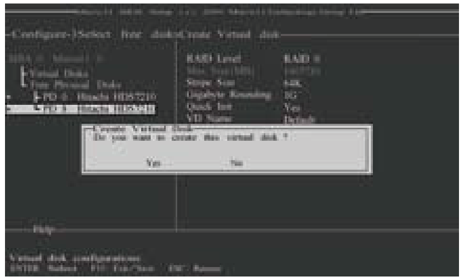
⑧

下キーを押して頂いて「Gigabyte Rounding」に
カーソルを合わせて Enter キーを押して頂きます
と丸め誤差の調整を「None」「1G」「10G」の中
から選択出来ます。

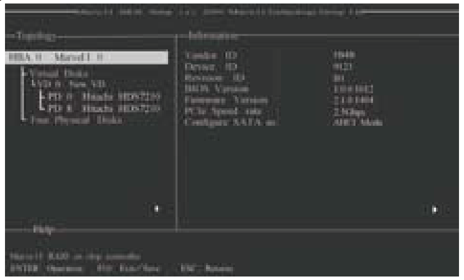
初期設定値は『1G』

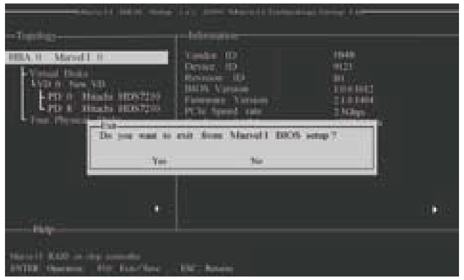
⑨

下キーを押して頂いて「Quick Inst」にカーソルを
合わせて Enter キーを押して頂きますと、
クイックインストールするか選択出来ますので
「Yes」「No」から選択して下さい。
「Yes」にしますと RAID を構築する際に素早く
インストール出来ます。
初期設定は『Yes』

⑩

下キーを押して頂いて「VD Name」にカーソルを
合わせて Enter キーを押して頂きますと、
ヴァーチャルディスクの名前をキーボードで
入力出来ます。
何も入力しないと『New_VD』になります。

⑪

下キーを押して頂いて「Next」に合わせて頂いて
Enter キーを押して頂きます。


「Create Virtual Disk」
『Do you want to create this virtual disk ？』と
表示されますので『Y』キーを押してください。

⑬

[Virtual Disks] の部分が今回作成しました
RAID、HDD になります。

⑭

RAID の構築が完了しましたら、
『F10』キーを押しますと [Exit] ウィンドウが開きますので、
『Y』キーを押しますと設定され終了します。

RAID 構築後、OSインストール方法は、
Windows XPの場合、4ページ目を確認して下さい。
Windows Vista/7の場合、5～6ページ目を確認して下さい。

RAID 構築後、増設用途で使用する場合は、
20ページ(**全OS共通**)

14ページに続く

再起動後、WIndows 起動前に構成の全体の情報が表示されます。

```
Marvell 88SE91xx  Adapter - BIOS Version  1.0.0.1013
PCIe x1  2.5bps
Mode: CPU  AHCI
Virtual  Disk
 [ID] [Name]        [Size]   [Level]  [Status]       [Stripe] [Members]
   0   New_VD       992GB   RAID1   Functional      64k       0 8
Physical  Disk
[ID]  [Disk Name]                     [Size]      [Speed]
 0     SATA HDS721010CLA332           992GB       3.0G
 8     SATA HDS721010CLA332           992GB       3.0G

Press <Ctrl>+<M> to enter BIOS Setup  or <Space> to continue
```

VD の RAID レベルです。

```
[Level]
 RAID1
```

本製品が接続されている
PCI スロットの情報です。

```
PCIe  x1   2.5bps
```

本製品の転送タイプの情報になります。

```
Mode:  CPU   AHCI
```

VD の ID と VD の名前です。

```
Virtual  Disk
 [ID]  [Name]
   0    New_VD
```

VD の容量になります。

```
[Size]
992 GB
```

Functional 関数表示方法です。

```
[Status]
 Functional
```

情報の転送 K 数です。

```
[Stripe]
  64k
```

VD を組んだ HDD /SSD の ID です。※変更不可

```
[Members]
  0  8
```

VDを組んだHDD/SSDのIDです。

本製品に使用しているチップの情報

```
Marvell  88SE91xx  Adapter - BIOS  Version  1.0.0.1013
```

本製品に接続されている HDD /SSD の情報です。

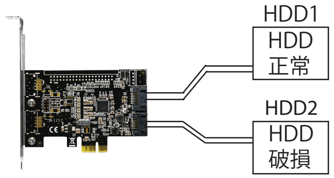
```
Physical  Disk
[ID]  [Disk Name]                 [Size]     [Speed]
 0     SATA HDS721010CLA332       992GB      3.0G
 8     SATA HDS721010CLA332       992GB      3.0G
```


【RAID 1リビルド方法(再構築)】

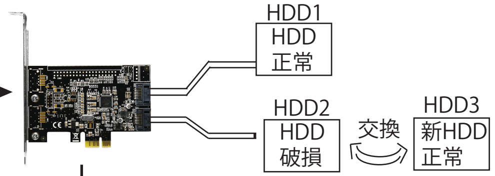
片方のHDD/SSDが物理的に使用する事が出来なくなった際に、破損したHDD/SSDを別の新しいHDD/SSDに差し替えて頂き、本手順で「リビルド(再構築)」する事が出来ます。※HDD/SSDを交換する際は必ずパソコンの電源を全てＯＦＦにしてから交換して下さい。電源がONの状態で機器を外しますと必ず破損いたしますので、ご注意下さい。※交換するHDD/SSDは『同一メーカー』、『同一型番』、『同一容量』の(HDD/SSD)をご使用下さい。

※本手順はSSDの場合も同じ手順です。

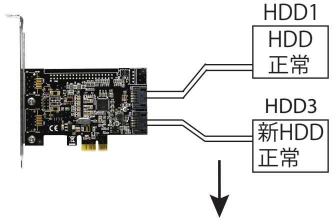
例：①HDD2が破損してしまった。

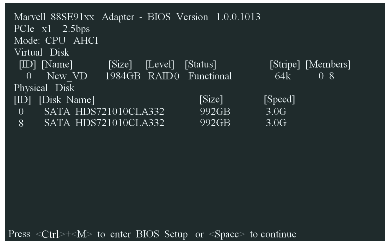


②破損したHDD2を新しい正常なHDDと交換します。

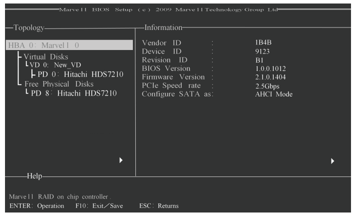


③新しいHDDを接続後、パソコンを起動します。

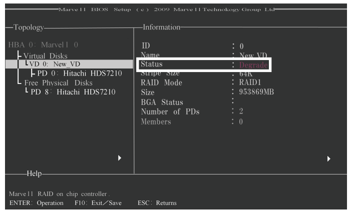




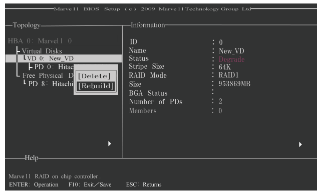
④パソコンの電源を入れますと BIOS 画面に製品の表示がされましたら画面左下に「Press <Ctrl>+<M>to enter BIOS setup or continue」と表示されます。
『Ctrl』と『M』キーを同時に押してください。
メイン画面に入ります。
表示時間が短く、数秒で消えますので押す準備をしておいて下さい。
＜見逃してしまった場合は再起動して下さい＞



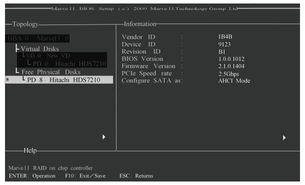
⑤本製品のRAIDメイン画面です。
キーボードの矢印を押して操作します。



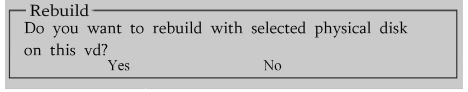
⑥キーボード矢印の「下」を押してカーソルを、「VD 0：New_VD」に移動します。※Information内の「Status」の表示が「Degrade」になっていると、RAIDが破損している状態となります。



⑦カーソルを「VD 0：New_VD」に移動後、
キーボードの「Enter」を押すと選択Windowが
開きますので、キーボードの「下」を押して
カーソルを「Rebuild」に合わせてキーボードの
「Enter」をおします。



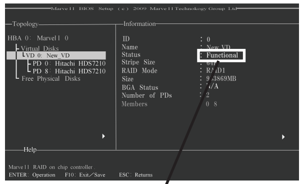
⑧「Free Physical Disks」内に表示されている、
PD X(接続されているポートにより数字が変ります)
にカーソルが自動的に移動しますので、キーボード
の「Space」を一度押してキーボードの「Enter」を押
します。



⑨「Rebuild」ウィンドウが開き、再構築をしてよろ
しければキーボードの「Ｙ」を押します。
※「Y」を押すと⑧にて選択したHDDの内容は全て
消去されますのでご注意下さい。
※データの保証等は一切行っておりません。

⑩キーボードの「下」を押してカーソルを
「VD 0：New_VD」に合わせます。

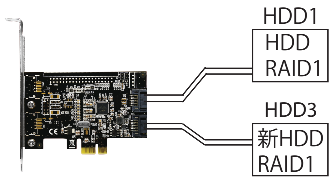
⑪画面右側の「Infomation」内に、「BGA Status」が
『Running(リビルド中)』「BGA Rebuild」が『%（進行
度）』を表しております。※注意『Running(リビルド中)
』にBIOS画面を閉じるのは絶対にお止め下さい。
必ず進行度が100%になり、⑫の画面になってから
操作して下さい。



⑫「Information」内の「Status」の項目が『Functional』
になり、「BGA Status」が『N/A』になりましたら「リビル
ド(再構築)」が完了します。

⑬RAIDの構築が完了しましたら、キーボードの
『F10』キーを押すと、[Exit]ウィンドウが開きます
のでキーボードの『Y』を押して、BIOS画面を閉じ
ます。

⑭以上でRAID1の状態に復旧して、HDD1のデータが、
HDD3と同期しました。

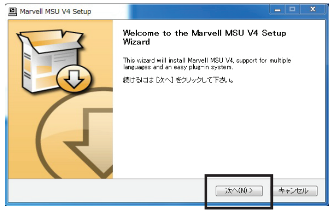


以上で完了です。

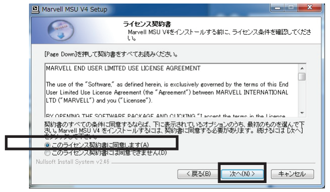
【RAID監視ソフトのインストール方法】

7ページ目からの『RAID 0』or『RAID 1』で運用している場合に本ソフトウェアを使用する事で、HDD/SSDの状況が
一目瞭然で判る様になり、本ソフトウェアの機能の一つに、メール設定をする事で、HDD/SSDに問題が起きた場合、
登録したアドレスに問題が記載されているメールが届くようになります。
※RAIDのファームウェアにより、画面等、予告無く仕様変更致します。

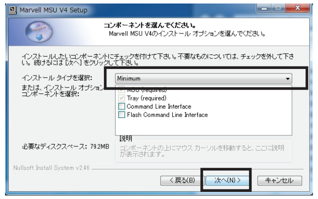
①「Marvell」→「MSU~~」→「Setup.exe」をダブル
クリックして、インストーラーを起動します。
**※ファイル名称はアップデートにより予告無く変
る場合がございます。**



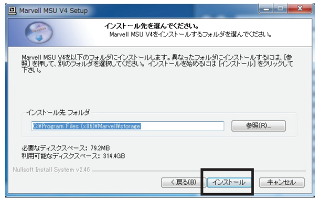
②インストーラーが起動したら、「次へ」をクリック
します。



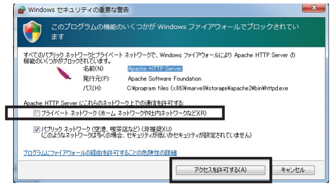
③「〜〜同意します」をクリックして「次へ」を
クリックします。



④「インストールタイプを選択」の右側の「Minimu
m」をクリックして「Full」をクリックして「次へ」を
クリックします。



⑤「インストール」をクリックします。
※インストール先のフォルダは特別な事情が無い
限り、変更しないで下さい。



⑥セキュリティの警告画面が出ましたら、「プライ
ベート〜〜」をクリックして「アクセス許可する」を
クリックします。

⑦セットアップが完了しましたら、「完了」をクリック
してウィンドウを閉じます。

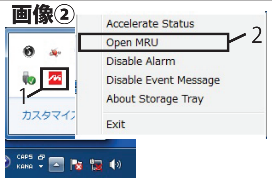
⑧「スタート」をクリック「シャットダウン」をクリック
して、パソコンを手動で再起動します。

【監視ソフト使用方法】

ソフトウェアの使用方法、メールの設定方法と、画面の見方(インターネットブラウザを使用する為、IE(インターネットエクスプローラー)をメインに記載します。

画像①

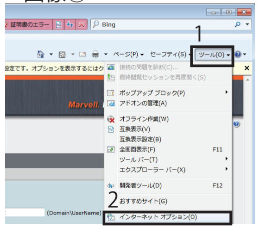
画像②



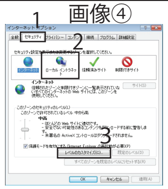
①デスクトップに表示されている「画像①」のショートカットをダブルクリック、もしくは「画像②」のは常駐アイコン内の1を右クリックポップアップウィンドウが開きましたら、「2」をクリックします。

②ブラウザが開いたら、「画像③」の1「ツール」をクリック→「インターネットオプション」をクリックします。

画像③

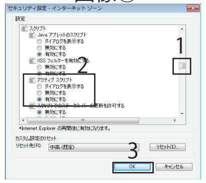


画像④



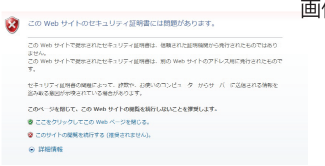
③「画像④」1「セキュリティ」クリック→2「ローカルイントラネット」クリック→3「レベルのカスタマイズ」をクリックします。

画像⑤



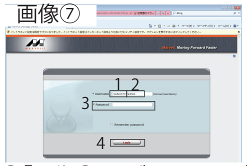
④「画像⑤」1のバーを動かして、2「アクティブスクリプト」ツリーの「有効にする」をクリックします。3「ＯＫ」をクリックします。※画像④の画面に戻りましたら「ＯＫ」をクリックして設定画面を閉じます。

画像⑥

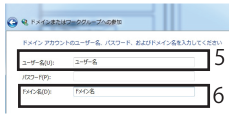


⑤「画像⑥」の1「このサイトの〜〜」をクリックします。

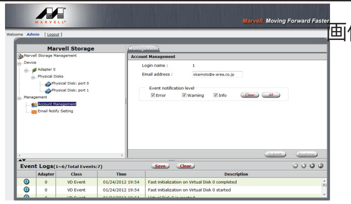
画像⑦



画像⑧

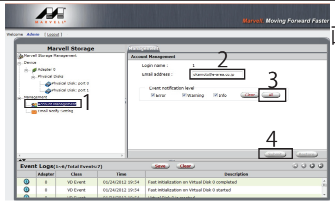


⑥「画像⑦」ログイン画面が開きましたら、1ドメイン名と2ユーザーネーム、3パスワードを入力します。
※ドメイン名名称の確認方法→7/Vistaの場合
「コンピューター」右クリック「プロパティ」クリック→「システムの詳細」→「ネットワークID」クリック→「次へ」×3クリック。
(画像⑦1ドメイン：が「画像⑧6ドメイン名」
(画像⑦2ユーザーネームが「画像⑧5ユーザー名」を入力します。
「ドメイン名」と「ユーザー名」の間には「\」を入れて下さい。※例：「ドメイン名\ユーザー名」確認後、「キャンセル」をクリックして確認ウィンドウを閉じます。
3パスワードはウィンドウズにログインする際に入力するパスワードを入力してください。
※パスワードが無い場合空欄で「画像⑦4 Login」をクリックしてログインします。
※ドメイン名名称の確認方法→XPの場合
「マイコンピューター」右クリック「プロパティ」クリック→「コンピューター名」クリック→「ネットワークID」クリック→「次へ」×4クリックすると「画像⑧」の画面が表示されます。



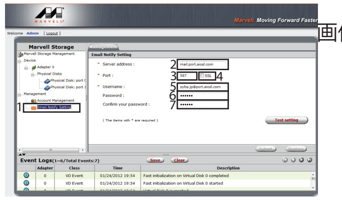
画像⑨

⑦監視ソフトメイン画面です。
最初に問題が起きた際に報告されるメールアドレスの設定を行います。



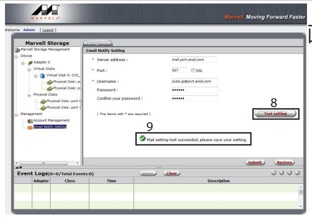
画像⑩

⑧「画像⑩」1の「Account Manegement」をクリック→「Email address」内の空白に報告メールが届く、アドレスを入力します。3「ALL」クリック→4「Submit」をクリックして保存します。



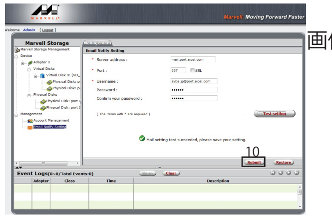
画像⑪

⑨報告メールを送信する為にサーバーの設定をします。
「画像⑪」1「Email Notify Setting」をクリックして
2「Server address」右側の空白に「メール(SMTP)サーバー」のアドレスを入力します。
3「Port」右側の空白に使用できるポート番号を入力します。
4「SSL」メッセージを暗号化の有無を決めます。
※チェックを入れるとON
5メールサーバーに登録されている「ユーザー名」を入力します。
6メールサーバーに登録されているユーザーのパスワードを入力します。
7「6」と同じパスワードを入力します。



画像⑫

⑩「画像⑫」8「Test setting」をクリックすると、サーバーの接続チェックが始まります。
9「Mail setting test succeeded~~」と表示されましたら、正常に接続されている事を表してます。
「Time out」又は「~~Miss~~」と表示される場合、
※インターネットはつながっているか、サーバーアドレス/ポート番号/ユーザー名/パスワード/が正しいか確認して下さい。

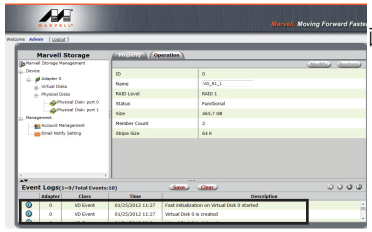


画像⑬

画像⑭

⑪「⑩」の「test setting」にて正常に認識しているのを確認したら、「画像⑬」10「Submit」をクリックします。

⑫「画像⑭」の「Setting updated succrssfully」と表示されましたら、セッティング完了です。



画像⑮

⑬「Event Logs」の「Description」内に情報が記載されていきます。
ここに記載されるたびに、「⑦」に登録したアドレスに情報がメールで転送されます。
※転送されるメールの送信者は「⑨/⑩」で設定したユーザー名で送られてきます。

**※メール機能を使用するには、別のパソコンで、「送信/受信サーバー」設定されている事が前提となります。
設定されていない場合使用できません。**

【HDD/ 光学ドライブ増設用のドライバインストール方法 (全 OS 共通手順】

①2 ページ目の手順通りパソコンに本製品とドライブを接続します。
※windows XP のみ【その他の Device】に ? の付いた【PCI Device】が表示されていますので
右クリックしてポップアップウィンドウを開いて「ドライバソフトウェアの更新」をクリックします。
「コンピューターを参照してドライバソフトウェアを検索します」をクリックします。
「参照」クリックします。「ドライバ CD」→「PCIe」→「Marvell91xx」→「1.0.0.1030-CPU-」→「SCSI miniport driver」→「miniport」→「Floppy32」or「Floppy64」のフォルダをクリックして頂きますと、? マークの付いている「Marvell 91xx Config ATA Device」に変わります。

②本製品をパソコンに接続して電源を入れます。

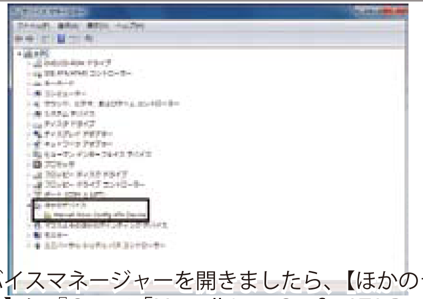
③パソコンが起動しましたら、「新しいハードウェアが見つかりました」と出ましたら、「キャンセル」をクリックして下さい。

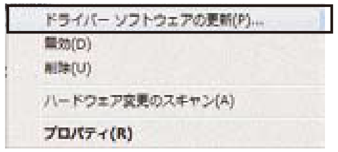
④ドライバ CD を光学ディスクドライブに挿入します。
（自動再生した場合「×」をクリックして閉じて下さい。）

補足 デバイスマネージャー参照方法

WindowsXP の場合
「マイコンピューター」を右クリック「プロパティ」をクリックし [ハードウェア] のタブをクリックし
『デバイスマネージャー』をクリックします。

WindowsVista/7 の場合
「マイコンピューター」を右クリック「プロパティ」をクリックして『デバイスマネージャー』
をクリックします。

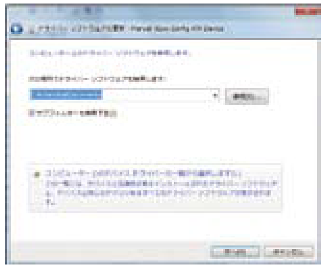
①

デバイスマネージャーを開きましたら、【ほかのデバイス】に『？』で「Marvell 91xx Config ATA Device」が表示されているのを確認してください。

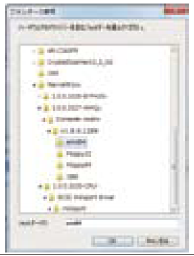
②


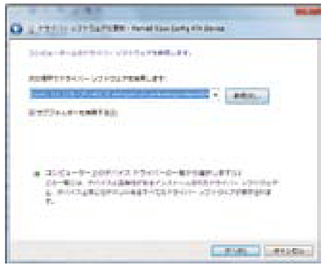
「Marvell 91xx Config ATA Device」を右クリックし
ポップアップウィンドウを開いて
「ドライバソフトウェアの更新」をクリックします。

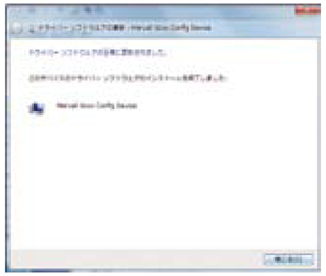
③

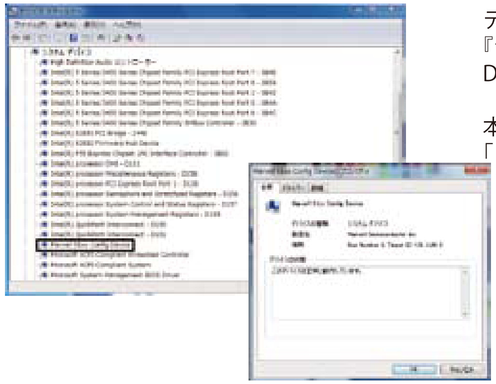
「コンピューターを参照してドライバソフトウェアを検索します」をクリックします。

④

「参照」をクリックします。

⑤

■32Bit の場合
ドライバ CD をクリックして頂きまして、「PCIe」→「Marvell91xx」→「1.0.0.1027-WHQL-」→「Console nodrv」→「v1.0.0.1200」→「i386」
※ドライバ/フォルダの名称は予告無く変更致します。
■64Bit の場合
ドライバ CD をクリックして頂きまして、「PCIe」→「Marvell91xx」→「1.0.0.1027-WHQL-」→「Console nodrv」→「v1.0.0.1200」→「amd64」のフォルダをクリックして『OK』をクリックしますとドライバのインストールが始まります。

⑥

「次へ」をクリックしますとインストールが始まります。

⑦

インストールが正常に完了しましたら、『閉じる』をクリックして、インストールを完了して下さい。

⑧

デバイスマネージャー画面に戻りまして、
『システムデバイス』のツリーに「Marvell 91xx Config Device」が表示されます。

本ドライバを右クリックしていただきまして、
「プロパティ」をクリックします。

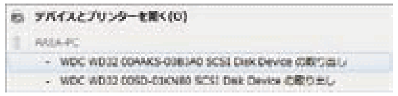
正常動作の確認となります。

ホットプラグに関しまして　(Windows Vista では本機能はご利用頂けません。)

Windows7 の場合

Windows 画面、右下のアイコンをクリックします。

該当のドライブを選び
『XXXXXX の取外し』をクリックします。



WindowsXP の場合

Windows 画面、右下のアイコンをクリックします。

該当のドライブを選び
『XXXXXX の取外し』をクリックします。

Windows Vista では本機能はご利用頂けません。

取外しが可能 / 出来ますのアナウンスが表示されますので、取り外しが可能になります。

※HDD に接続の電源に関しましては、起動中でも取り外せないものをありますのでご注意ください。
パソコン並びにお客様の構築機材によりましても変わりますので詳しくは各取扱説明書をご確認下さい。